

ささえ愛

北宇和高等学校
人権委員会
2025 7月号

暑さが日ごとに増し、夏本番です。学校では期末考査も終わり、一人ひとりが努力の成果を実感していることと思います。少し余裕がある時には、人権について考える時間を持ってほしいと思います。この人権だより「ささえ愛」が、人権について考え、自分の日頃の言葉や行動を振り返るきっかけとなってくれば幸いです。



情報課 岩崎 理

二人の子宝に恵まれ、幸せな日々を過ごせている。長男 21 歳、二男 17 歳。

長男が乳児期のことである。キョロキョロと周りをよく見る子どもであった。乳幼児健診で「専門医に見てもらったほうが良い」とのことで受診すると、先天性眼振と診断された。視力や立体視に不安があるとのことであった。強く生きて欲しいため、いろいろなことに挑戦させてきたつもりである。しかし、中学進学するとき、親としての不安が爆発した。

部活動の選択で、「野球」がしたいと言われた。眼振があるため、本人のけがが心配であった。というのも、兄弟でキャッチボールをしていて、捕球ができず頭に当たってしまうことがあったためだ。そのため、「野球」はあきらめさせ、ソフトテニスを選択させた。ボールは見えづらかったようであるが3年間やり遂げることができた。高校入学後は弓道を選択した。中学高校と熱意をもって取り組むことができていて、親として満足していた。

そんな長男が、大学入学後、軟式野球部に入部した。大きなケガもなく活動を続け、2年経った。先日帰省したときに、「高校野球したかったな・・・」と。長男は、高校球児である二男のよき理解者であり、誰よりも応援している。

挫折する子どもを見たくなかったため、野球をさせてやれなかった。親として猛省である。野球への関わり方はプレーヤーだけでなく、マネジメントやデータ収集と幅広く考えられる。野球を経験させていれば、自分で判断し、より良き道を見つけ出せていたかもしれない。「適材適所」子供の方向性を親として決めるべきでなかった。人の進む道は、その人それぞれである。



※ 人権だより「ささえ愛」では皆さんの感想、人権についての考えを募集しています。

感想・意見 () 年 () 組 ()

..... 切り取り線

6月号の感想を紹介します。

6月号は、6月に行われた人権・同和教育ホームルーム活動の各クラスの様子と、人権・同和教育ホームルーム活動の大切さについての記事でしたね。6月号を読んで感想や意見を書いてくれて、ありがとう。



1年生

- ・人権・同和教育ホームルーム活動を通して、クラスメイトと様々な意見を交わして学習したことをこれからの生活にも活かしたい。差別をなくすために、これからもこのような学習に真剣に向き合いたい。
- ・今回のホームルーム活動で、自分の言葉や表現で相手を傷つけてしまったり、自分も傷ついたりすることがあると感じたので、みんなが楽しい生活ができるように取り組んでいきたい。

2年生

- ・差別や偏見を乗り越え、誰もがありのままの自分を見せることができる社会になればいいと思う。
- ・思いやりの気持ちをもって生活していきたいと思った。差別や偏見に対して「おかしい」と声を上げる勇気を持ちたいと思った。

3年生

- ・今まで人権についてたくさん学んできて、人権の大切さをたくさん知ったので、社会に出ても人権の勉強をしたいと思う。
- ・差別について正しく学ぶことは、差別がなくなる第一歩になると感じた。